

東北復興・福島復興に向けた緊急アピール

理化学研究所放射光科学総合研究センター長 石川哲也

日本原子力研究開発機構量子ビーム応用研究部門 副部門長 片山芳則

東日本大震災から 2 年半が経過しましたが、未だ復興の道筋は遠く、特に原子力施設事故を抱えた福島では次々に新たな問題が発生しています。原子力被害からの復興に向けて先端科学技術の果たすべき役割は大きく、わが SPring-8 においても日本原子力研究開発機構の専用ビームライン等において、放射性物質の吸着特性や減容化に向けての先進的な研究が進められています。

しかしながら、問題が次々と拡大していく中で、迅速な事態の收拾に向かうためには、原子力機構に加え SPring-8 ユーザー全体で知恵を出し合っていく必要があるように思われます。特に、汚染水の問題は深刻さを増しておりますが、高性能除染フィルターの開発等に放射光の果たす役割は非常に大きいのではないかと考えられます。

そこで、SPRUC 会員の皆様や、皆様の周囲の除染関連分野で働いている方々と一緒に、高輝度放射光をより一層福島復興のために活用する方策について議論し、出来ることから速やかに実行する体制を確立することを考えております。10 月中旬頃を目途に、皆様にお集まりいただくワークショップ開催を検討しておりますが、本アピールにご賛同頂き、また実質的に研究活動にご参加いただける方は、

1) ご氏名、2) 所属機関・職位、3) 連絡先電話番号、4) e-mail アドレス、5) 寄与できる内容

を、rikencenter@spring8.or.jp あて、メールでお知らせいただけませんか？9 月 25 日までにお知らせいただけると幸甚です。

以上